

愛媛県 武道館 だより

第20号

平成23年3月
愛媛県武道館発行
〒790-0948
松山市市坪西町551
(☎089-965-3111)
<http://www.ehimekenbudoukan.or.jp>

少林寺拳法 開祖生誕100周年にあたって 愛媛県少林寺拳法連盟 事務局長 戸田 正和

2011年2月11日は少林寺拳法の創始者『宗 道臣』（そう どうしん）の100回目の誕生日です。そこで少林寺拳法連盟では2011年を『宗 道臣』生誕100年の記念年と位置づけ各種の記念行事を展開しております。

この機会に皆様に少林寺拳法とは何かを紹介させていただきます。

「創始者 宗 道臣について」

1911年（明治44年）2月、岡山県作東町（現 美作市）生まれ。17歳の時、中国に渡り、大陸を駆けめぐる。その間、縁あって嵩山少林寺の流れを汲む『文太宗老師』の知遇を得てその門に入り、各種の拳技を修得する。ソビエト連邦軍政下の中国東北（満州）の地で敗戦を迎える。

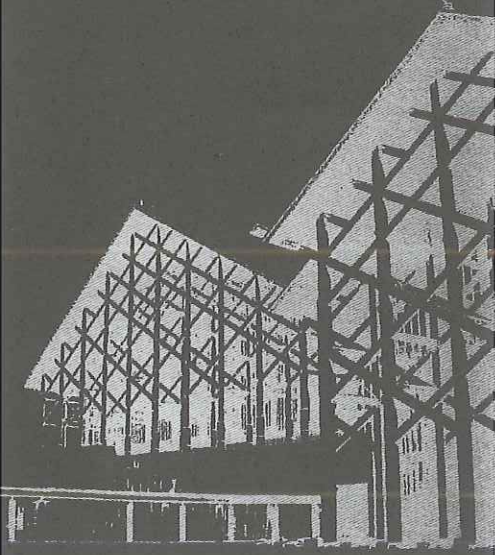
敗戦直後の極限状況下で、人間の赤裸々な行動を目の当たりにし、法律も軍事も政治の在り方も、リーダーとなる「人間の質」にあることを確信する。そして、真の平和を達成するためには、慈悲心と勇気と正義感の強い人間を育てる以外にないと決心する。

1947年（昭和22年）10月、香川県多度津町において、「力愛不二」の“教え”と「自己確立・自他共榮」を旨とする“技法”を中心とした、社会に役立つ人づくりの教育システムを考案して、「拳禅一如」の「少林寺拳法」を創始、少林寺拳法師家となる。

1980年（昭和55年）5月、逝去

「少林寺拳法とは？ 少林寺拳法は“人づくり”」

少林寺拳法は1947年、日本において『宗 道臣』が創始した“人づくりの行”です。



自分の身体と心を養いながら、他人とともに援け合い、幸せに生きることを説く「教え」と、自身の成長を実感し、パートナーとともに上達を楽しむ「技法」、そして、その教えと技法を遊離させず、相乗的なスパイラルとして機能させる「教育システム」が一体となっています。

人間は生まれながらに、どのようにも成長してゆける可能性を秘めています。少林寺拳法はその可能性を信じて自分を高め続けられる人、周囲の人々と協力して物心両面にわたって豊かな社会を築くために行動できる人を育てています。

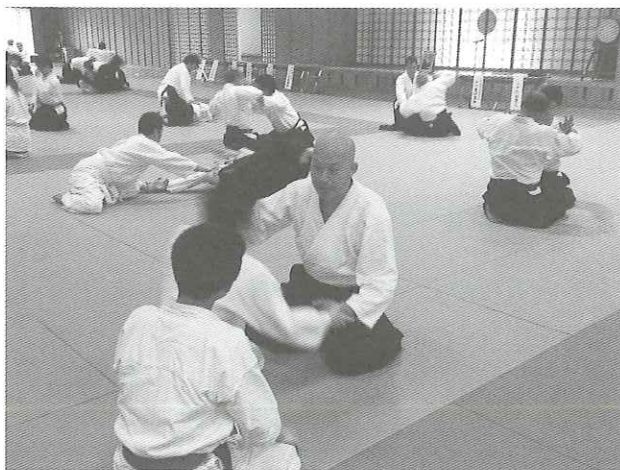
さらなる合気道の充実をめざして

愛媛県合気道連盟 副会長 橋田 一美

合気道は、開祖・植芝 盛平翁が日本伝統の武術の奥義を究め、さらに厳しい精神修業を経て創始した現代武道です。合気道の技法は、投げ技、固め技、投げ固め技、武器応用技などに大別されます。これらの技は打つ、突く、つかむなど、相手のあらゆる動きに対応して組み立てられています。

また、相手といたずらに力で争いません。入り身と転換の体捌きから生まれる技によって、お互いに切磋琢磨し合って稽古を積み重ね、心身の鍛錬を図ることを目的としています。ですから、試合形式をとらず、お互いの習熟度に合わせて技を繰り返します。そのため、健康に良いのは言うまでもなく、日常生活において何事にも積極的に取り組む自信が自然と培われてきます。

全国各地の道場には年齢、性別、職業、国籍を問わず多くの人々が集まってきます。さらに日本国内にとどまらず、世界90カ国以上において次々と道場が開設され、21世紀の新しい人類の文化として期待されています。



〈(財)合気会 本部 栗林師範による講習風景〉

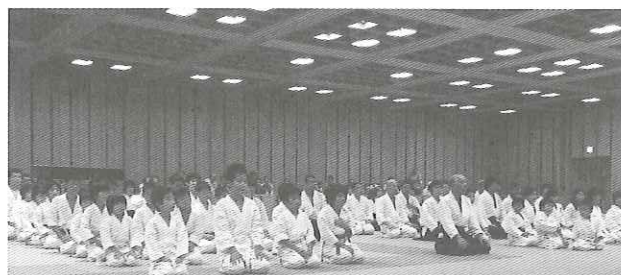
ところで、私と合気道との出会いは、昭和48年、愛媛大学合気道部に入部したことがきっかけでした。当時

は、「合気道」とは言っても、世間にはあまり知られておらず、私自身も空手や柔道との違いすら認識していませんでした。そのような状況の中、全く白紙の状態で合気道を習うこととなりました。

稽古は山口県から中村 克也師範、岡田 元昭師範を指導者として招聘し、普段は上回生の先輩方に一つ一つ受け身から丁寧に教えていただきました。

愛媛県内では、すでに松山を中心に合気道の道場が設立されており、大学合気道部とも交流を深めていました。

さて、私は大学卒業後、生活根拠地である今治市で社会人としての一歩を踏み出しました。そして、昭和57年4月に今治市合気会を設立し、現在29年目を迎えています。その間、2代道主・「植芝 吉祥丸先生」や3代道主・「植芝 守央先生」が今治市合気会の創立記念行事のために来訪されました。



いよいよ来年は創立30周年を迎えます。これからも合気道を通じて、青少年の健全なる人格形成をめざすと共に、愛媛県合気道連盟のさらなる発展に向けて頑張っていきたいと思っています。

千葉国体を振り返って

愛媛県相撲連盟 常任理事 松下 功次

平成22年9月26日から28日まで、第65回国民体育大会相撲競技が千葉県木更津市民体育館で開催された。相撲競技は、少年、成年の2種別で47都道府県がフルエントリーして行われ、本県からも選手、監督10名を派遣した。

私も少年の部の監督として、選手と共に目標である入賞を目指すこととなった。木更津市民体育館は、私が指導者となり初めて全国高校総体に出場した思い出の場所であり、懐かしさと同時に自分を原点に戻してくれたような新鮮な気持ちで大会に臨んだ。

戦績を含め、今大会を振り返ってみたい。

少年は、これまで3年連続で決勝トーナメント（ベスト16）に進出するも、あと一歩のところまで入賞を逃し、悔しい思いをしている。この現状を踏まえて今年は、全日本学生選手権大会を制した近畿大学で合宿を行うなど

積極的な強化に取り組んだ。そして、「今年こそは、入賞」を合い言葉に選手は、土俵へ上がった。しかし、入賞へのプレッシャーからか前へ出る相撲に徹しきれず、不用意な引き技が目立つなど勝ちを意識しすぎた消極的な相撲に終始した。その結果、決勝トーナメント進出を懸けた同点決勝までは駒を進めたが、予選敗退（予選順位：17位）となった。四国大会や合宿などを通してチーム力が向上したかに思えたが、最も重要な精神面の強化が図られていなかったことに悔いが残る。

成年は、予選から強豪県との対戦が組まれており苦戦が予想された。しかし、県外遠征などで対戦相手を想定した綿密な対策を講じたことや平均年齢22歳という若さが爆発し、予選を3戦全勝で通過した。このまま勢いに乗り、上り詰めるのではないかと期待が高まったが、全日本実業団選手権大会準優勝の富山県チームの壁を崩すことはできなかった。入賞を逃し、記録には残らなかったが、彼らの挑戦者としての謙虚な土俵態度と積極果敢に自分の相撲を取りきる姿は、相撲ファンや他県の選手の記憶に深く刻まれたに違いない。そして、何より本県の少年選手に、相撲に対する真摯な姿勢を教示してくれた。

今大会の反省に当たり、成年チームの健闘振りが今後の強化の方向性を示してくれたように思う。本県には、少年、成年共に飛び抜けたスター選手はいない。しかし、個々の持てる力を集結させれば入賞の一手前まで来ている。対戦相手を徹底的に分析して自分の相撲を取りきることで、チームで戦うという意識付けをして結束力を高めること、選手と指導者の信頼関係を構築することなど、当たり前のことを地道に積み上げていけば近い将来、入賞の二文字が現実となることを確信した。



今後は、真新しいことに目を向けるのではなく、本県の選手に適した「愛媛方式」の強化を推し進め、相撲連盟を中心とした「オール愛媛」のサポート体制を確立して天皇杯の得点獲得は勿論のこと、愛媛の相撲を全国にアピールしていきたい。

やんちゃ坊主と空手道

愛媛県空手道連盟 伊藤 伸治

「このやんちゃ坊主をどうにかせないかん！」幼い私のことを、両親はいつも感じていたそうです。そんなある日、近所の公民館で空手道をやっていました。それを見て、「僕もやってみたい！」とやんちゃ坊主が一言、両親からの空手道を始める条件として、「自分がやると言ったからには、簡単にはやめないこと。」それが、私が空手道を始めたきっかけでした。

空手道をして良かったこと、それは礼儀を身につけたことです。良い返事、良いあいさつ、敬語や正しい言葉遣い、靴をそろえる、物をもらうときは必ず両手で受け取る等、いっけん当たり前のように感じますが、これらを幼少の頃から習慣としてできるようにしてもらいました。その経験が、社会人となった今も様々な対人関係に役立っています。ただ、やんちゃ坊主ぶりは変わりませんでした。小学—中学—高校—大学—社会人の各世代で空手道を続けることで、県の代表として、国体や全日本大会に出場することができました。

ここで、国体と全日本大会に出場した報告をします。まずは、千葉国体。平成22年10月2日～4日、空手道競技は千葉県の浦安市舞浜で開催されました。様々な交通機関を利用し、舞浜駅に到着した私の目にとびこんできたのは、左にディズニーシー！そして、右にディズニーランドでした。「こりゃ、いかん！ディズニーが俺を呼んでいる！」残念ながら私の夢は叶いませんでしたが…（笑）。

余談はこれぐらいにして、少し真面目に話をします。千葉国体での私の成績は、初戦敗退という結果でした。非常に悔しかったですが、言い訳はしません。自分が弱かったから負けた、それだけです。他のメンバーですが、入賞手前のベスト16まで勝ち進んだ選手は何名かいましたが、残念ながら今回は入賞者を出すことができませんでした。私なりに分析しますと、全国レベルの選手との実戦経験が足りないことが大きいと感じました。全国で結果を残している選手と対戦し、そこから対策を考え、稽古する、といった段階を多く実践していくことが今後の課題だと思います。

続きまして、全日本大会。平成22年12月11日～12日、初日は東京武道館で県対抗の団体戦、2日目は、日本武道館で個人戦が行われました。結果は、成年女子形の部で井上和代選手が5位入賞！他の選手は、私も含め、個人・団体ともに初戦敗退という結果でした…「くそおー！次は負けへんからな！」。



全日本大会を終えて、私が強く感じたことは、「ポイントが取れない！」ということでした。なぜポイントを取ることができないのか。それは、極めの技術がしっかりとできていないからだと感じました。「極め」とは、簡単に言うと、突きや蹴りのコントロールのことです。愛媛県選手は、他県の選手と比べ、極めの技術が軽いという印象を受けました。何度も言いますが、極めの技術の習得が全日本大会における今後の課題であると思います。

終わりに、やんちゃ坊主の私ですが、空手道と出会い、本当に良い経験をさせてもらっています。今後、現役選手としてどこまでできるか、今はまだ分かりませんが、空手道に「恩返し！」をテーマに、自分のできることを続けていきます。

愛媛国体まであと6年！愛媛県空手道連盟の皆さん、そして、愛媛県民の皆さん、愛媛国体後、みんなであまのお酒を飲むために！総合優勝しましょう！

事業報告

○鏡開き式の開催について

新春恒例の「鏡開き式」を愛媛県スポーツ振興事業団と県内9つの武道団体（柔道協会、相撲連盟、剣道連盟、弓道連盟、銃剣道連盟、なぎなた連盟、空手道連盟、少林寺拳法連盟、合気道連盟）の主催により、平成23年1月9日(日)に愛媛県武道館で約1,100名の参加のもと開催しました。



愛媛県武道館からのお知らせ

○メール配信サービスについて

平成22年度の事業もたくさんの事業を実施しました。

参加された皆様、ありがとうございました。来年度もたくさんの事業を計画しております。教室の募集開始案内など、いち早く事業の案内を入手したい方は、下記のメールアドレスまで氏名・電話番号を送信してください。

E-mail: jigyo@ehimekenbudoukan.or.jp

○平成23年度の主な行事予定について

開催日	行事名	主催・主管
4月10日(日)	ゆずコンサート	夢番地
5月7日(土)、8日(日)	山下泰裕わんぱく柔道教室	(財)愛媛県柔道協会
5月14日(土)	中・四国医科学生柔道大会	(財)愛媛県柔道協会
5月15日(日)	中・四国学生剣道選手権	愛媛県剣道連盟
5月21日(土)、22日(日)	小田和正コンサート	テューク松山
5月28日(土)、29日(日)	全日本実業柔道団体対抗大会	(財)愛媛県柔道協会
7月2日(土)、3日(日)	福山雅治コンサート	テューク松山
7月16日(土)	武道体験フェスタ	愛媛県剣道連盟・ツ振興事業団他
8月7日(日)	四国中学校総体(剣道)	愛媛県中学校体育連盟
8月18日(木)、19日(金)	四国研究大会	愛媛県教育委員会
8月21日(日)	四国選抜少年少女空手道選手権大会	松山白鷺ライオンズクラブ
8月27日(土)、28日(日)	エンジョイなぎなた全国大会	愛媛県なぎなた連盟
9月3日(土)、4日(日)	中・四国学生柔道体重別選手権	(財)愛媛県柔道協会
10月16日(日)	ひのまるキッズ四国地区小学生柔道大会	(財)愛媛県柔道協会
10月22日(土)	全日本居合道大会	愛媛県剣道連盟
11月20日(日)	中四国中学生レスリング選手権大会	愛媛県レスリング協会
12月3日(土)、4日(日)	日中成人スポーツ交流事業(卓球・バドミントン)	(財)愛媛県体育協会
1月8日(日)	鏡開き式	愛媛県スポーツ振興事業団他
2月4日(土)~7日(火)	全日本実業団バスケットボール大会	愛媛県バスケットボール協会
2月25日(土)、26日(日)	Vリーグ女子愛媛大会	愛媛県バレーボール協会

(大会名・日程などは、変更される場合があります)

○トレーニングルームより

平成22年7月から開始しました「四国八十八ヶ所ウォーキングラリー」は、参加者からご好評をいただいております。日々、武道館トレーニングルームのエアロバイクや、ランニングマシン等を使って走行距離を測定・記録し、四国巡礼したのと同じ距離(約1,122kmの道のり)を早い人で、半年の月日をかけ「結願」されています(2月末現在の結願者数3名)。

また、先日2月に行われた「愛媛マラソン」には、多くの利用者の方の雄姿がありました。その中には、武道館で運動をするまで、まったく運動習慣のなかった方が、日々の努力の結果、見事完走するという快挙がありました。

まさに「ちりも積もれば山となる」です。トレーニングルームで運動習慣の初めの一步を踏み出してみませんか。